

# 主体的・対話的で深い学びを促す家庭科における見方・考え方を働かせた家庭科学習指導

日 高 佳 菜 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

## Learning and teaching of home economics that encourages interactive and profound learning

HIDAKA Kana

キーワード：家庭科授業、問題解決、主体的・対話的で深い学び、家庭生活、見方・考え方

### 1 はじめに

現在及び将来にわたる実際の生活の場で、家庭科の学習が生きて働き、よりよい生活を目指して課題を解決するために、子ども一人一人が自分の家庭生活の中から課題をもち、学んだ知識と技能を用いて、自分なりの工夫を考えて解決策を実践できる学習内容を設定する必要がある。さらに、家族の一員として、家庭生活を改めて見つめ直したり、実感したりすることによって、現実の自分の生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用して生活をよりよくしようと工夫し、進んで実践しようとする思いや願いが持続することが重要であると考えられる。

そのためには、より実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、家庭生活で生かしたいという思いや願いが持続する学習内容が大切であると考えられる。また、子どもたちは、自分が家族に支えられているとともに、自分の存在があって家族が構成されているという相互関係に気付くことで、家族の一員としての自覚をもつことができる。さらに、家族が協力して互いに家庭生活を支え合うことが大切である。

### 2 家庭科の特質に応じた主体的・対話的で深い学び

家庭科教育においては、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造することを重視しており、家族や家庭、衣食住、消費や環境など、多様な生活事象を学習対象としている。これらの生活事象に係る問題を解決するために、知識・技能を身に付け、それらを活用する学習過程において、「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現することが求められる。審議のまとめでは、「家庭科の見方・考え方」を「生活の営みに係る見方・考え方」として以下のように示している。

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

この見方・考え方に示される視点は、相互に関わるものであり、子どもの発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成等によって適切に定める必要がある。例えば、家族・家庭生活に関する内容においては、「協力・協働」、衣食住の生活に関する内容においては、「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」、消費生活・環境に関する内容においては、「持続可能な社会の

構築」を主として考察する視点とすることが考えられる。

「捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」とは、

- 時間や空間の広がりで問題を捉える。
- 生活課題を生活経験と関連付けて、多角的に検討し、考える。
- 事象を比較し、事象の優先順位や善し悪し、類似点や差異点を明らかにして考える。
- 根拠や理由を明確にして科学的に考える。
- 自分の生活（家庭や家族）と関連付けて考える。
- 既存の知識を他の事象に適用し、どのように関わっていくか考える。

ことと考えられる。この生活の営みに係る見方・考え方は、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するといった思考力・判断力・表現力を発揮させる際に必要なものである。家庭科学習指導においては、このような問題解決の過程の中で学習内容の深い理解や生活を創造することのできる学びを実現していく必要がある。本校家庭科部は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、次のように学ぶ姿を深い学びと捉えた。

子どもが、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた問題解決の学習過程の中で、知識や技能を活用し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりするなど、学習内容の深い理解や生活を工夫し創造する資質・能力の育成につながる学び

以上の点から、深い学びの実現のためには、自分の考えを構想したり、表現したりする問題解決的な学習過程を展開し、生活事象に係る事実的知識が概念的知識として質的に高まったり、主体的に活用できる技能の習得が図られたりする学習を展開する必要がある。そのために、学習指導においては、「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるために、生活事象を横断的に捉え、空間的・時間的な広がりを意識させる必要がある。また、生活から問題を見だし、課題解決への思いや願いから目的意識を明確にし、課題解決に必要な観点を見だし、課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程が大切であると考えられる。

### 3 学習指導の具体化

#### (1) 生活の営みに係る多様な生活事象を横断的に捉えるための題材の構成

##### ア 生活の営みに係る多様な生活事象を横断的にとらえるための題材の構成の基本的な考え方

題材で扱う生活事象は、『家族や家庭』、『衣食住』、『消費や環境』の3つから考えることができる。生活事象を横断的に捉えるためには「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」の考察する視点が必要である。(表1) その際、子どもの発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材のねらい、系統などを考え、適切に定める必要がある。考察する視点を適切に定めることで指導内容と子どもの生活とを具体的に関連させることができる。このように、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら題材における生活事象と考察する視点を関連付けることで、学習内容の深い理解や生活を創造する資質・能力を育成することにつながると思われる。

表1 生活事象と考察する視点との関連

		生活事象		
		家族・家庭生活	衣食住の生活	消費生活・環境
考察する視点	協力・協働	●	●	●
	健康・快適・安全	●	●	●
	生活文化の継承・創造	●	●	●
	持続可能な社会の構築	●	●	●

イ 生活の営みに係る多様な生活事象を横断的に捉えるための題材構成の具体例

第6学年題材「気持ちよく生活しようⅢ～快適生活プロジェクト～」では、生活事象『衣食住の生活（特に住）』における考察する視点を明確にしていく。考察する視点から、題材における生活事象の要素を明確にすることで、「住生活」をより多角的に捉えることができる。（図1）さらに、題材における目的意識が高まり、問題解決的な学習の過程において、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、目的や追求内容、方法が合っているかなどを吟味したり、現実の課題を意識した生活での適用の仕方を見いだしたりすることができる。

(2) 空間軸や時間軸の視点をもった学習内容の設定

ア 空間軸や時間軸の視点をもった学習内容の設定の基本的な考え方

家庭科では、家族・家庭生活や衣食住の生活などの現在を時間軸の起点にして、過去に遡ったり、未来を展望したりする中で様々なことが見えてくる。同様に、空間軸で自分自身や家族という身近な所から地域、日本、さらに世界へ関心を広げると様々な事象や相互の関係が見えてくる。（図2）少子化や高齢者・福祉、環境、消費、食や生活経済など生活の諸問題の状況を分析したり、地域や社会との関わりを考えたりするためにも、この視野の広がりには不可欠であると考え。広がりの中で、今自分がどの時点・地点にいるかについて自覚することで、目的意識が明確になり、課題解決への意識がより高まっていくと考える。以上のことより空間軸や時間軸の視点をもった学習内容の設定が大切であると考え。

<考察する視点>	<生活事象の要素>
協力・協働 ※家族や地域の人々との協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族と住む</li> <li>・ 高齢者や子どもと住む</li> <li>・ 地域の中に住む</li> </ul>
健康・快適・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と住まい（住まいとは何か）・衣服・食事</li> <li>・ 住まいと健康（寒さ・暑さ、通風・換気、採光）</li> </ul>
生活文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住居における生活文化</li> <li>・ 地域の気候や風土</li> </ul>
持続可能な社会の構築 ※環境・消費問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境問題</li> <li>・ 環境や資源を考えた暮らし（省エネ・エコライフ）</li> </ul>

図1 快適生活プロジェクトにおける考察する視点と生活事象の要素

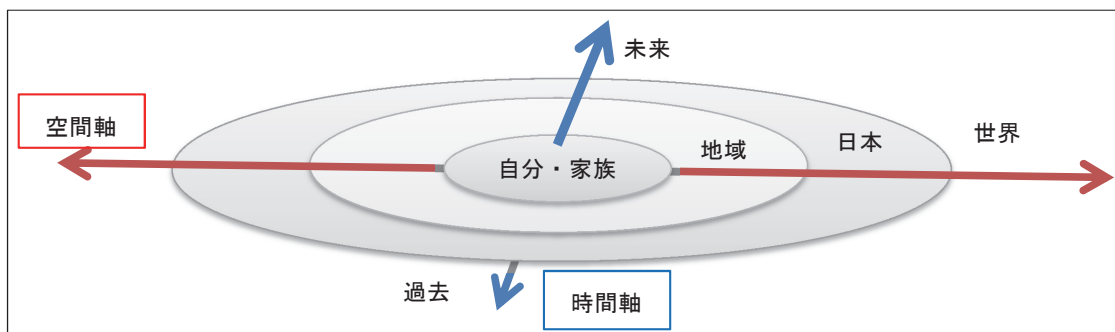


図2 家庭科における空間軸と時間軸のイメージ

### イ 空間軸や時間軸の視点をもった学習内容の設定の具体例

第5学年題材「気持ちよく生活しようⅡ～寒い日の過ごし方～」の追求計画を立てる際に、空間軸と時間軸から冬の生活における時点・地点を自覚させることで、自分が追求活動を行うよさを実感したり、これまで意識していなかった追求活動を進めるために必要な視点を見いだしたりすることができる。「住生活」の学習においては、時間軸を遡ると日本や世界のこれまでの住居の歴史となり、未来に目を向ければ、これからの住まいや住まいの問題の視点が広がっていく。また、空間軸を広げると自分の部屋や住まいの設計、地球環境の問題へとつながっていく。時間軸や空間軸を意識することで、子どもは自分自身を取り巻く生活問題について追求し、解決するための視野が広がり、課題解決に必要な視点を見だし、その視点をもとに自分の考えを構想し、学習内容を深く捉えていくことができる。

### (3) 課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程

#### ア 課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程の基本的な考え方

課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程は、課題解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりするなど、学習内容の深い理解や生活を工夫し創造する資質・能力を育成するものである。よって、深い学びの実現につながるものであると考える。学びが深まるかどうかは、「生活の課題発見」で、子どもにとって学ぶ価値があると感じられるかどうかであると考えている。日常に目を向けさせ、問題を感じていることに気付かせる「問い」をもたせることで切実な生活の課題に向き合うことから学習が始まる。特に導入時には、目的意識が明確になり、子どもの思いや願いが高まることにつながる「問い」をもたせることが大切である。「解決方法の検討と計画」では、「生活の課題発見」で明確になった目的意識から課題解決し、生活をよりよくする工夫へと向かうために必要な「視点」を見いだすために必要な「問い」をもたせることが大切である。その際、生活事象を横断的に捉え、時間軸や空間軸の広がり意識できることで、課題解決に必要な「視点」が見いだされ、どのように生活を工夫していくかどのように実践していくかが、明確になると考える。

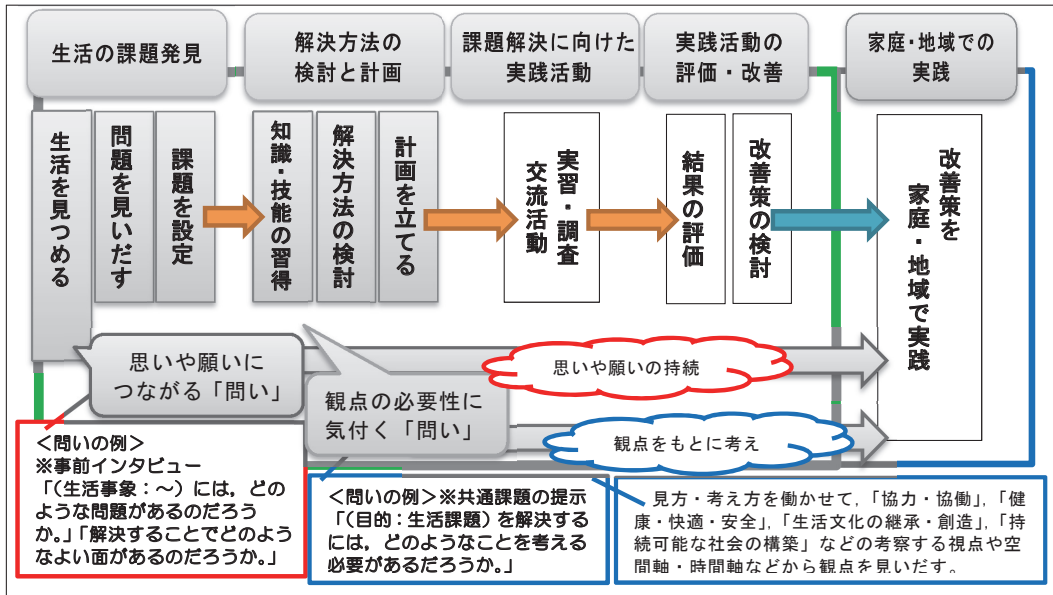


図3 一題材における学習過程と「問い」の関係

イ 課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程の具体例

第5学年題材「気持ちよく生活しようⅡ～寒い日の過ごし方～」の「生活の課題発見」, 「解決方法の検討と計画」では, それぞれ以下のような「問い」が考えられる。(表2)

表2 生活の課題発見・解決方法の検討・計画の過程での問いの

「生活の課題発見」の過程での子どもの問い	「解決方法の検討と計画」の過程での子どもの問い
C:「冬は, 寒くて動きにくいな。暖房を点けてもなかなか部屋が暖まらないな。」 (生活課題を生活経験と関連付ける) C:「確かに, 部屋がなかなか暖まらないので設定温度を上げたり, 長時間暖房を点けたりしていることがあるな。」 C:「長時間暖房を点けているせいで, 空気が乾燥して喉が痛くなることもあるな。」 T:「解決しなくてはならない問題がありそうだね。」 C:「解決して, 家族と元気に快適に過ごしたい。」 C:「でもどのように解決していけばよいのかな。」	※共通課題(冬の住まい方の場面)の提示 C:「暖房を使いすぎているせいで, 喉が痛くなったり, 電気代が上がったりする問題がある。」 C:「なかなか暖まらないからそのような問題が起きてしまうのかな。」 C:「短時間で部屋全体を暖められたら問題が解決するのかな。」 T:「効果的に暖める方法(効率面)は解決につながりそうだね。」 C:「効率よく暖められたら電気代も今よりは, かからなくなる。」 T:「電気代を節約する方法も(環境・消費面)解決するためには必要だね。」



4 学習指導の実際

課題解決に向けて「問い」をつなげる学習過程「生活の課題発見」における学び合い

「生活の課題発見」(1・2/10時)で、子どもにとって学ぶ価値があると感じさせる。日常生活の問題に気付かせる「問い」をもたせることで、目的意識が明確になり、子どもの思いや願いが高まる。

目標(1/10)

日常生活の整理・整頓や清掃の問題に関心を持ち、生活を見つめて自分の問題を見だし、課題を設定し、目的意識を明確にすることができる。

本時の学習について

学校の中の整理・整頓がされている場所から、「気持ちが良い」という視点を共通理解する。次に、家庭の中の場所から教師が提示した写真や事前の家庭の観察やインタビューから問題を見いだす。見いだした問題点を「使いにくさ」や「健康によくない」といった視点で捉えさせ、問題解決の必要性を感じさせる。

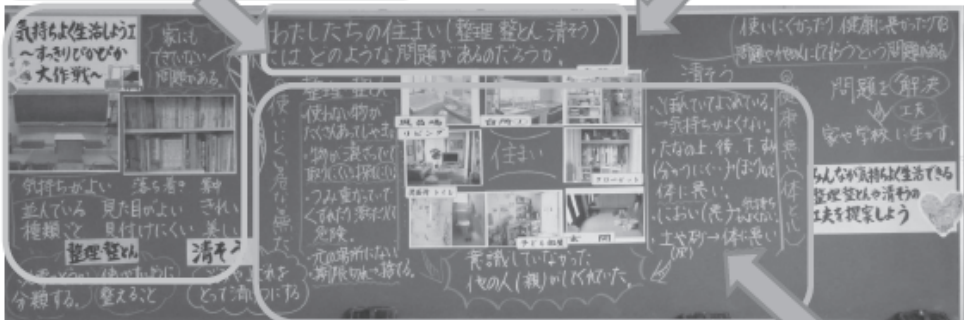
<問いの設定①>

共通で認識できる「気持ちが良い」学校の場所をもとに「気持ちが良い」理由を考えさせ、自分の家庭の現状を見つめさせる。



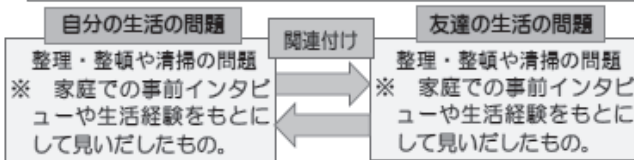
学校は、使いやすくなっている場所が多いけれど、ほとんどの家では、使いにくくて困っている場所がある。特にほとんどの部屋は、物がなくなったり、見つかりにくくなったりすることがあるよ。

「気持ちが良い」理由が分かってきたぞ。ほとんどの家の様々な場所には、問題がありそうだ。なぜ気持ちよく感じない場所があるのだろう。



<学び合いの設定①>

自分の家庭の問題を見いだすことができるようにするために、各部屋の写真を見ながら、友達や自分の生活の問題を関連付けながら話し合わせる。



私の家では棚のすき間にほこりがいっぱいたまっていたよ。見えないうちにほこりがたまりそうだね。



リビングのソファの下をのぞいたときに、ほこりがたまっていたことがあったよ。すき間や物の下は注意した方がよさそうだね。

新たな整理・整頓や清掃の問題の気付き

かんは川に! (4)	自分の家庭においての課題が見つかることができた。	頑張り、がんばりでいいので、かいていきたいです。
(名前)さん みんなの生活経験をもとに見いだしたものが、なかになら!	そして他の家庭のようすも物事ごとができた。	それるじっかんしたい!

目標（2/10）

整理・整頓や清掃についての生活の問題を多角的に捉えさせるために、整理・整頓や清掃における共通場面の問題の内容を分類し、機能面や健康面、環境面など観点を見いだすことができる。また、見いだされた観点から自分の問題を捉え直すことができる。

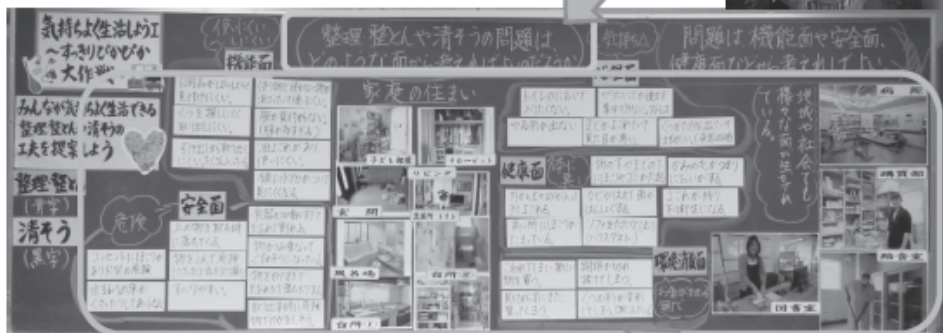
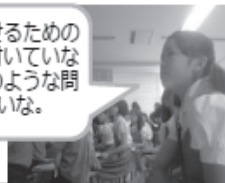
本時の学習について

生活の問題を多角的に捉えるために家庭での整理・整頓や清掃が必要な場所の写真を提示し、問題を分類する活動を設定する。地域、社会においても観点を生かした整理・整頓や清掃をすることのよさについて考えられるようにするために、機能面や健康面などの観点を生かした地域の施設や取組についての写真を提示し、観点のよさに気付かせる。

<問いの設定②>

整理・整頓や清掃の問題をより多角的に捉えさせるために、「生活の問題を全て見いだすことができたのだろうか。」と問う。その際、前時の板書を提示し、問題を捉え直す必要性を感じさせる。

家族みんなが気持ちよく過ごせるための環境をつくりたいな。まだ、気付いていない問題もあるかもしれない。どのような問題があるのかな。解決に生かしたいな。



<学び合い設定②>

生活の問題を捉える上で必要な観点を見いださせるために、共通場面によって見いだされた問題点の内容を分類させる。その際、どのような考えで分類することができるのかを問う。

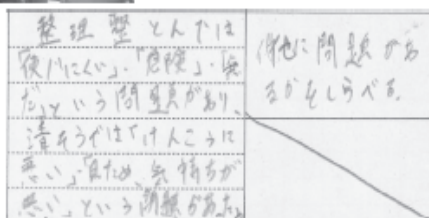
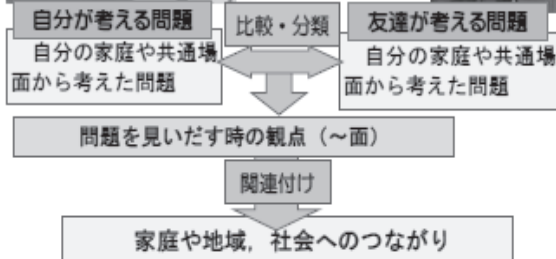


家庭だけでなく、地域や社会においても観点をもちて問題を捉えられるようにするために、観点のよさを生かした地域の施設や取組についての写真を提示し、「なぜこのような問題が起きるのか」「どうしてうまくいっているのか」と問う。



わたしは、お風呂場で問題点を考えてみよう。カビやぬめりでも衛生的にも悪そうだな。

みんなが出した問題点は、5つの面で分類することができた。これらの面は問題を見つける時や解決方法を考える時に役立ちそうだな。



## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 題材を構成する際、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら題材における生活事象と考察する視点を関連付けることで、子どもの学習内容の深い理解や生活を工夫し創造する資質・能力を育成することにつながった。
- ・ 時間軸や空間軸の広がりの中で今自分がどの時点・地点にいるかについて自覚することで、子どもは自分自身を取り巻く生活問題について追求し、解決するための視野が広がり、課題解決に必要な観点を見だし、その観点をもとに自分の考えを構想し、学習内容を深く捉える姿が見られた。
- ・ 「生活の課題発見」「解決方法の検討と計画」の過程で課題解決に向けての問いをもたせることで、子どもが学ぶ価値を実感し、思いや願いを高めることができた。また、どのように生活を工夫していくかどのように実践していくかを、明確にすることができた。さらに、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりするなど、学習内容の深い理解や生活を工夫し創造する資質・能力を育成することにつながった。

### (2) 課題

- ・ 本年度の研究の成果から、今回住生活で検証された学習指導のポイントは、他の学習内容においても、深い学びを実現するために有効であると考えられる。他の学習内容においても、深い学びの様相を具体化し、効果的な教師の働きかけを明確にしていきたい。
- ・ 資質・能力を育成していくために必要な「生活の営みに係る見方・考え方」を第5・6学年の2学年でどのように身に付けさせ、働かせ、深めていくかを明確にしていきたい。さらに、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる学習内容や題材構成を系統的に捉えた年間指導計画の作成を進めていきたい。

## 6 付記

本報告は、鹿兒島大学教育学部附属小学校平成27～29年度研究紀要で発表した研究内容に基づき、家庭科教育において研究をさらに発展させ、その研究の成果をまとめたものである。

## 7 主な参考文献

- 荒井紀子「生活主体を育む」 (ドメス出版 平成21年)
- 吉原崇恵「子どもがいきる家庭科」 (開隆堂 平成22年)
- 荒井紀子「パワーアップ!家庭科」 (大修館書店 平成24年)
- 西岡加名恵「資質・能力を育てるパフォーマンス評価」 (明治図書 平成28年)
- 寺本貴啓・後藤顕一・藤江康彦  
「小学校のアクティブ・ラーニング入門－資質・能力が育つ主体的・対話的な深い学び」 (文溪堂 平成28年)
- 大杉昭英「アクティブ・ラーニング授業改革のマスターキー」 (明治図書 平成29年)
- 中央審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の改善及び必要な方策等について(答申)」 (平成28年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領」 (平成29年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説編 家庭編」 (東洋館出版 平成29年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説編 総則編」 (東洋館出版 平成29年)